

公益社団法人 三国・芦原・金津青年会議所 2022年度
スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

2022年度理事長 石丸 和宏

【スローガン】

原点回帰

～シンMAK・JCの確立～

注：MAK=Mikuni.Awara.Kanazu（三国・芦原・金津）

【基本理念】

●はじめに

私は三国町で自営業の長男として生まれ、なんとなくこの会社を継がないといけないという思いで家業の勉強のために上京しました。日本の中心である東京で様々な人と出会い、多くの経験をしたのち地元に戻ってきました。18歳まで楽しく過ごした時に見えていた景色と、東京で見てきた煌びやかな景色、そして戻ってきた時にどんよりと見えた景色のギャップに、本当に帰ってきたのが正解だったのかと自問自答したのを今も覚えています。しかしこの地域には大自然を身近に感じながらの生活、青少年の心の豊かさ、穏やかな県民性、そしてこの地域を心から愛する方々との出会いが私自身を変えてゆき、帰ってきたことは間違いではないと確信しました。ですが、この地域には多くの観光資源があるにもかかわらずあまり活気がなく、人口減少に伴う担い手不足による事業承継問題など数多くの社会問題があります。そのような問題解決に持続的に取り組んでいるのが青年会議所であり、明るい未来を創造できると信じ5年前に入会することを決意し、この地域のためにできることがあるのであればと思い活動を続けてきました。

そんな中、一昨年より新型コロナウイルスを起因とするパンデミックが人類のあらゆる尊厳を脅かし、世界規模で社会的、経済的危機を引き起こしながら、依然として私たちの生活に甚大な影響を与え続けています。MAK・JCにおいても、その活動に大きな影響を受け、生命の安全と経済の再生という難しい選択を突き付けられています。そして「今までの価値観」が大きく変容し、新しい生活様式を迎えざるを得ない状況に立たされました。

予測できない変化が社会全体で起こり続け、ニューノーマル時代への対応を求められるなか、地域のリーダーを志す若き青年経済人の集まりである青年会議所が為すべきこととは何か。このような先行き不透明な時代だからこそ、今一度、青年会議所の本来の姿を明確にし、そして原点に立ち返る必要があり、理事長としてチャレンジしてみたいと考えるようになりました。「明るい豊かな社会」を実現するため、今為すべきことを自らが判断し、何のためにこの地域で活動しているのか、そして何を残せるのかを再確認し、メンバーと共に次の5年に向けたアクションプランを基に飛躍できる一年を目指します。

●原点回帰～シンMAK・JCの確立～

「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」この言葉は、1951年、第1歩を踏み出した日本青年会議所創立当初の指針であります。「ひとづくり」「まちづくり」「教育」「国際社会」「環境」など様々な分野において、青年としての正義感、理想を追求する心、真摯な情熱という価値観のもと積極的にかかわってきました。それぞれの時代で人は変わ